

地域医療連携室だより

地域医療連携室 室長 挨拶

令和 3 年 秋 号 / 第 27 号

大阪市立十三市民病院

日に日に秋が深まり紅葉の季節となり、貴院におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。例年であれば秋を探しに散策をと思いますが、コロナ禍でもあり、まだ“三密”が予想される場所への外出は気が引けます。

コロナ感染が拡大し約 1 年半これまで軽症患者に対する治療法が確立されておりましたが、この 7 月に抗体カクテル療法（「ロナプリーブ」）が承認されました。これにより「重症」「中等症」「軽症」と症状に応じた治療方法を行うことが可能となりました。当院においても保健所やフォローアップセンター経由のみでの受入となっておりますが、8 月から患者の重症化を防ぐ治療法「抗体カクテル療法」の導入、8 月下旬からはロナプリーブ短期入院の受入を開始しております。

また、新たな治療薬の承認や経口投与可能薬の治験が最終段階と発表されており、コロナ治療への実用化にむけ期待は膨らむばかりです。

前述の治療法の確立が進む一方、ワクチン接種率の低い世代での感染者が増加し、当院においても 20～50 代の感染者がコロナ入院患者全体の 70%を占めております。一日でもはやくワクチンが行き届くことを願っておりますが、ワクチン分科会において、新型コロナワクチンの追加接種（3 回目接種）の必要性が唱えられており、当院でも動向に注視しております。

当院では、地域の医療機関との連携を目的とした催しを定期的で開催しており、9/25（土）に認定看護師オープンセミナーを、9/30（木）に十三トピックセミナーをそれぞれオンラインで開催いたしました。認定看護師オープンセミナーでは、当院の 4 名の認定看護師（がん化学療法看護認定看護師・慢性呼吸器疾患看護認定看護師、認知症看護認定看護師、緩和ケア認定看護師）によるがん患者さんに対する ACP についての取組や記録方法、認知機能低下患者さんやコロナ患者に対する意思決定支援など、当院の事例を交えながら紹介させていただきました。また、十三トピックセミナーでは、当院の摂食・嚥下障害看護認定看護師の伊吹由香看護師による「当院での摂食嚥下障害患者に対するアプローチ」と国立長寿医療センターの前田圭介先生による「誤嚥性肺炎とサルコペニアの摂食嚥下障害」についてご講演頂きました。当日は医師・看護師をはじめたくさんの職種の方がご覧いただき、主催した当院としてもとても光栄に思います。多数のご視聴まことにありがとうございました。この紙面をお借りして、御礼申し上げます。認定看護師によるオープンセミナーについては、来年 1 月にも開催いたしますので、是非ともご参加ください。

他にも、地域連携会、地域連携パス連絡会を開催しておりますので、ご興味のある方は、お気軽にご連絡下さい。また医療・看護に関する情報交換・カンファレンス等の意見交換も Zoom を活用し積極的に行っています。今後も地域の医療の発展の為に、発信していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携室室長 鮫島 百代



編集 〒532-0034 大阪市淀川区野中北 2-12-27



大阪市立十三市民病院 地域医療連携室

代表電話：06-6150-8000 直通電話：06-6150-8067

<泌尿器科>

平素は十三市民病院泌尿器科が大変お世話になり、誠にありがとうございます。

御存じのように本院は、Covid19 患者専門病院への移行を受けて、一時一般泌尿器科診療は完全に中止となりましたが、昨年 8 月以後は外来、入院・手術治療も再開となりました。また当科は幸いにもコロナ以前のスタッフ（泌尿器科常勤専門医 3 名）に変わりはなく、マンパワーを低下させることなく従来通りの外来、入院、手術等を行っております。



泌尿器科部長 安達 高久

内容につきましては、①従来通りの尿路結石症、前立腺疾患、膀胱腫瘍に対する内視鏡手術（ただし前立腺肥大症に対するレーザー治療は休止中）。②腎、膀胱、後腹膜腫瘍の全摘出術や尿管、精索静脈瘤手術など多方面の腹腔鏡手術、③入院患者さんに対する排尿自立指導の継続等を中心に行っております。また、その他尿路感染症や悪性腫瘍に対する抗癌剤治療、一般診療、検査等も従来と変わりなく行っております。ただ、現在も新型コロナ患者さんの治療もあわせて行っているため、夜間・休日等の泌尿器科急患に対して、十分な対応ができない場合も多くありますが、これまで以上に地域医療に貢献できるように、より柔軟かつ丁寧な対応を心掛けており、どのような内容でも構いませんので、もし当科での診察・治療を望まれる患者様がおられましたら、一度ご紹介いただければ幸いです。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

◎第 13 回十三トピックセミナー報告◎

9 月 30 日（木）に第 13 回十三トピックセミナーをオンラインで開催いたしました。当院の医師や看護師など、地域の医療機関の医師や栄養士など多職種にわたって計 135 名の方々が参加されました。まことにありがとうございます。

当日は、西口院長の挨拶で始まり、耳鼻咽喉科の愛場部長が座長を務め、一般講演では当院の摂食・嚥下障害看護認定看護師の伊吹由香看護師が当院における嚥下障害患者の推移や介入件数を紹介しながら、患者それぞれの介入方法や口腔問題による栄養状態不良・摂食嚥下障害患者に対しては外部歯科医院と連携し、口腔問題への取り組みを紹介しました。



西口 幸雄 院長

特別講演においては、国立長寿医療センターの前田圭介先生による「誤嚥性肺炎とサルコペニアの摂食嚥下障害」についてご講演頂きました。誤嚥性肺炎の治療と言えば、「床上安静・禁食・補液」が一般的ですが、床上安静による筋力の低下や禁食による唾液減少・口腔内細菌環境の悪化、栄養不足などで治療日数が長くなることのリスクなどを紹介されました。



（左）伊吹 由香 看護師



（右）愛場 庸雅 部長



院内視聴風景



国立長寿医療センター
前田 圭介 先生

START

摂食嚥下チーム発足について



摂食嚥下障害患者の現状

高齢化に伴い、嚥下障害による誤嚥性肺炎者数は年々増加傾向にあります。

当院においても嚥下スクリーニング数が2018年78件、2019年107件へと増加し、コロナ専門病院へ移行後も2020年度は37件の依頼がありました。

摂食嚥下障害患者さんは経口摂取不良により低栄養や脱水を引き起こし、全身状態悪化に移行してしまいます。そのため正しい評価を行い支援することが重要となってきます。こうした現状を踏まえ、2021年7月に栄養サポートチーム（NST）の一貫として摂食嚥下チームを発足しました!!

構成メンバーは、耳鼻咽喉科医・言語聴覚士・摂食嚥下障害看護認定看護師・各病棟リクナースです。

当院での摂食嚥下チームの活動目標

「大阪市立十三市民病院における入院患者の摂食嚥下障害の状態を改善するとともに、摂食嚥下障害に対して専門的立場より指導・助言を行う」ことを目標として、嚥下障害のある患者さんが安全で安心して食事が摂取できるようNSTや多職種と協働し活動していきたいと思っております。

主な活動内容

週2回のラウンドとカンファレンスを行い、治療内容の検討、食事形態についての検討、食事環境調整や食事介助のポイントなどのアドバイスをを行い、退院に向け患者さんに適したサポートを実施します。

必要に応じて、内視鏡下嚥下機能検査（VE）を実施し多角的に嚥下機能評価を行い、その結果に応じて言語聴覚士または病棟担当看護師により間接・直接訓練（食事介助等）を実施しています。



今後、ますます活動範囲を拡大し、より良い医療や看護を提供できるよう臨んでいきたいと思っておりますので、ご支援ご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

令和3年度 大阪市立十三市民病院 認定看護師オープンセミナーのご案内

当院では認定看護師による地域の看護職の皆さまを対象とした研修を実施しています。
今年度は第1回目を9月25日（土）に開催いたしましたが、同じ内容で第2回目を下記のように**2022年1月22日（土）**に開催いたします。

病院、施設、訪問看護など、様々な領域で活躍されている皆さまと情報共有を行いながら、
学べる場を目指しております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

* 詳細は随時更新予定です（病院ホームページにてご確認ください）。



開催日	時間	テーマ	講師
2022年 1月22日 (土)	14:00 ～ 15:30	事例を通して学ぶ アドバンス・ケア・プランニング	がん化学療法看護認定看護師 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 認知症看護認定看護師 緩和ケア認定看護師

【開催形式】 ZOOM形式での開催を予定しています。

【参加費】 無 料

【申込方法】 2022/1/17までに「メール：cn13@osakacity-hp.or.jp」に
下記「1～4」の項目を明記の上、お申し込み下さい。



- 1、氏 名（ふりがな）
- 2、施設名称・施設住所
- 3、電話番号（平日9:00～17:00の間で連絡が取れる番号）
- 4、質問内容

◎研修に関するお問い合わせは TEL：06-6150-8000（代）

- ・ 医療安全管理部：皮膚・排泄ケア認定看護師 奥 田
- ・ 外 来：糖尿病看護認定看護師 森 脇 までお願いします。

※受講受付は、メールでお返事致します。

※当日キャンセルの場合は、ご連絡不要です。

たくさんのご参加
お待ちしております。

